

経営比較分析表（平成28年度決算）

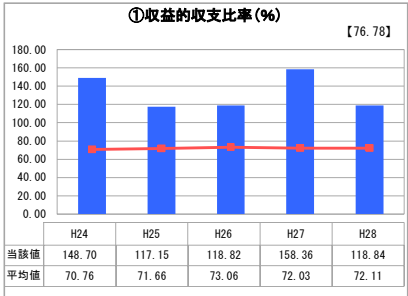
新潟県 粟島浦村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	100.00	3,560	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
353	9.78	36.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
343	1.75	196.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



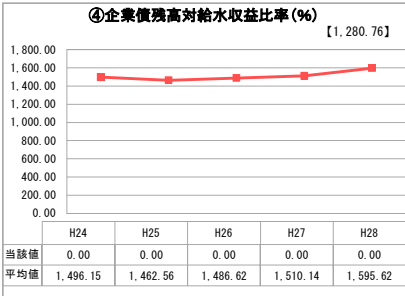
「単年度の収支」



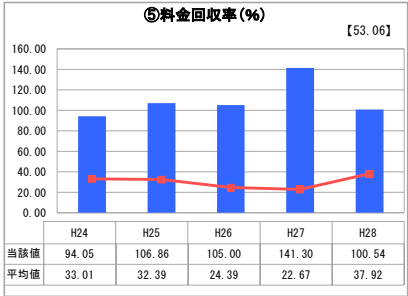
「累積欠損」



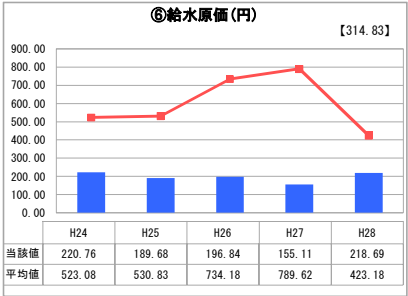
「支払能力」



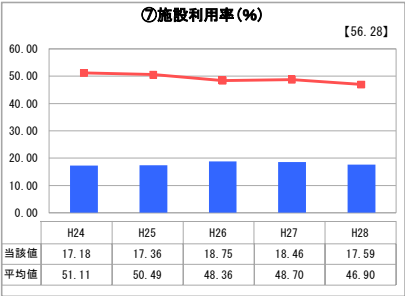
「債務残高」



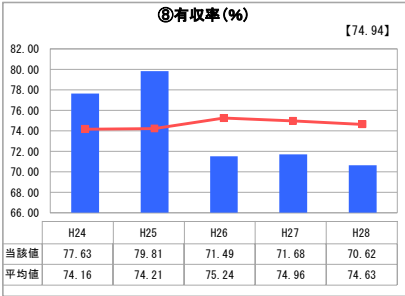
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

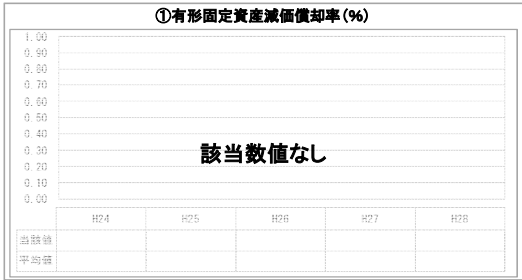


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

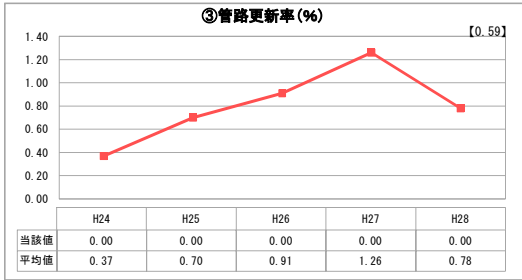
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度も118.84%と毎年度、収益的収支比率は100%を上回っているため、経営状況は比較的健全な水準にあるといえる。

また、平成28年度の料金回収率についても、100.54%と類似団体平均（37.92%）を上回っているだけでなく、24年度（94.05%）を除いては料金回収率がここ数年間において100%を上回り、経営に必要な経費を料金で賄うことができています。

水道水1m³を作る費用である給水原価は、コストを抑えている中で旅館等を経営している個人事業主が多く、有収量が多くなっているため、その分、給水原価を引き下げる要因となっており、類似団体平均と比較してもかなり下回っている。

施設利用率については、毎年度、類似団体平均と比較すると低い水準にある。これは、給水人口が減少していることなどによるものであり、今後、水需要動向によって施設規模の見直しを含めた効率的な事業運営計画を検討する必要がある。

有収率は、平成26年度からの3年間に於いて、類似団体平均を下回っている。これは、観光客等の給水人口に表れない流入人口が減少したことによるものと考えられる。

2. 老朽化の状況について

簡易水道事業の管路更新投資の実施状況を示す過去5年間の管路更新率が0%となっている。これは平成19年までに石綿管から塩ビ管に更改したためである。

平成30年度には新たに地域水道ビジョンを策定する予定であるが、併せて老朽化に備えた長期的な老朽化更新計画も策定し、計画的な更新を進めていくことを検討している。

全体総括

粟島浦村は、現在給水人口343人で、地下水、表流水を主な水源としており、有収水量密度0.26千m³/ha、水道事業経営指標における分類では、給水人口5千人未満（給水人口規模別区分：⑨）、水源別区分は、その他、有収水量密度は全国平均以下の類型（類型区分：d 9）に属する。また、水道は、1簡易水道事業を営営し、普及率は100.0%である。

現時点で経営の効率性、健全性は概ね確保されているといえる。しかしながら、給水人口の減少等により、水道料金収入が減少する中で、更なる経費節減に努めるとともに、各指標を十分に分析し、資産維持費を含めた適正な水道料金収入の確保等対策を講じる必要がある。また、地理的的特殊性があるものの、施設の効率性が低い水準にあることから、今後の人口や水需要の動向に注意しながら施設規模の見直し等の検討を行い、計画的に効率的な経営に努めていく必要がある。